「読書感想文コンクール」を実施しました

葛飾区では、教育振興ビジョンの取組の一つとして、児童・生徒の読書活動を推進するために「読書感想文コンクール」を実施しています。

今年度は、小学生1万6千319点、中学生4千982点の応募があり、その中から、次の最優秀賞・優秀賞・佳作が選ばれたほか、326人が入選しました。

小学校低学年の部

最優秀賞
大角　奏歩（おおづの　かなほ・水元小1年）

優秀賞
柿崎　翼（かきざき　つばさ・水元小2年）
高見　颯斗（たかみ　はやと・白鳥小2年）

佳　作
神田　瑞稀（かんだ　みずき・東水元小1年）
佐藤　凪沙（さとう　なぎさ・小松南小1年）
先﨑　夏光（せんざき　なつみ・幸田小2年）

小学校中学年の部

最優秀賞
岩田　翔人（いわた　しょうと・葛飾小3年）

優秀賞
佐藤　芽伊（さとう　めい・梅田小3年）
二階堂　優珠（にかいどう　ゆず・幸田小4年）

佳　作
大島　春香（おおしま　はるか・綾南小4年）
齋藤　龍（さいとう　りょう・半田小3年）
中島　諒大（なかじま　りょうた・半田小4年）

小学校高学年の部

最優秀賞
竹生　紘希（たけぶ　ひろき・東水元小6年）

優秀賞
井上　和音（いのうえ　かずね・青戸小6年）
田中　楽（たなか　らく・柴又小5年）

佳　作
恩田　メイ（おんだ　めい・よつぎ小6年）
細井　啓良（ほそい　あきら・渋江小5年）
安田　あゆみ（やすだ　あゆみ・二上小5年）

中学生の部

最優秀賞
日比野　忍（ひびの　しのぶ・四ツ木中2年）

優秀賞
小久保　里穂（こくぼ　りお・東金町中3年）
鈴木　杏実（すずき　あみ・新小岩中3年）
出水　万結（でみず　まゆ・亀有中1年）

佳　作
笠原　颯人（かさはら　はやと・常盤中3年）
小西　泰聖（こにし　たいせい・立石中1年）
清水　万里名（しみず　まりな・東金町中1年）
関口　恵和（せきぐち　えお・新小岩中1年）
角田　すみれ（つのだ　すみれ・高砂中3年）
溝上　菜々子（みぞかみ　ななこ・青戸中3年）

（敬称略・同一賞内は氏名の五十音順）

指導室　☎（5654）8573

中学生の部・最優秀賞

シアワセの選択

四ツ木中学校二年　日比野　忍

「シアワセニ、ナリナ」

児童養護施設あけぼの園で、まだ六歳の明希が言われた言葉です。

幸せに、なりな。

これは、「今」は幸福じゃないかもしれないけれど、「未来」は自分で幸せにできるんだ、という意味だと思います。でも、幸せになるとはいったいどういうことなのでしょう。

私は、明希にとっての幸せについて考えました。

明希は母親についていくか、あけぼの園に残って父親を待つか大きな決断を迫られます。

明希の決断はこうです。

「いかない。」

「ここにいる。」

あけぼの園に残るというのです。これは本当に明希にとっての幸せなのでしょうか。待ったところで父親はいつ迎えにくるか分かりません。もしかしたら、このまま来ないことだって考えられます。園長も、母親についていくよう説得しました。けれど、明希の答えは変わりません。やはり父を待つというのです。これは明希にとって幸せだったのでしょうか。

幸せとは、いったい何でしょう。親がいることでしょうか。親がいたら、それで幸せなのでしょうか。

私には、母親がいません。生まれて半年の話なので、私には母親との思い出もありません。幼い頃はそれが普通なんだと思っていました。けれど、年を重ねるにつれ、「みんなとは違う」という意識が芽生えはじめました。

「お母さん。」

その言葉を聞くのが嫌でした。自分が一度も口にしたことのない言葉をあたり前のように言う友達が憎らしくて、うらやましくて。けれど、どんなに願っても母親がもどってくることはありません。

母親がいない。

これは本当に不幸なことなのでしょうか。たしかに私には母親がいません。けれど、父がいます。祖母がいます。二人だけではありません。周りのたくさんの人達が、私を大切にしてくれます。私も、そんな人達が大好きです。これは、けっして不幸なことではありません。私は、幸せです。

では、明希はどうでしょう。

明希は、父親との思い出をとても大切にしています。父と食べたラーメン。一緒に登ったアパートの裏の木。半分こしたリンゴジュース。明希が大事にもっているぬいぐるみも父親からもらったものでした。そんな父は、明希に約束をします。

「すぐにまた会いにくる。」

と。明希は父親を信じて待つことを選びました。

幸せ、とは本人にしか分からないものです。一見他人から見れば不幸そうに見えることも、本人はそうではない場合もあるのです。だから、何が本当に幸せなのか、ということは分かりません。

明希は父親を選びました。もし父親がこのまま迎えにこないとしても、もし一緒に暮らせてそれが良い結果にならなかったとしても、明希は幸せを信じてその道を選んだのです。

明希は幸せになるための道を「自分」で選びました。これから先、自分自身で幸せをつかむための道を。

私はどうでしょう。明希のように自分で幸せを選んだことがあったでしょうか。私は父、祖母を始め、たくさんの人達に支えられています。それは私の選んだ幸せではなく、与えられた幸せです。私の「今」は、たくさんの人達からもらったものです。

しかし、そんな私にも一つだけ、自分で選んだものがあります。それは、私の夢です。その夢はとても大きく、口にするのも恥ずかしく、親にも言えていないほどです。ですが、幼い時の私がたしかに選んだ未来です。中学校を選ぶ時も、その夢に近づくための部活がある学校を探しました。今、私はその部活で精一杯がんばっています。たくさんの仲間に支えられながら。

私はきっと夢を叶えようと思います。私が夢を叶えることが、周りにもらったたくさんの幸せを返すことだと思うのです。これが私の選んだ道です。

けれどその選択が本当に正しいのかは分かりません。そもそもその夢が必ず叶うともかぎらないのです。叶わないかもしれない夢を、本当に持っていて良いのか・・。全力でやっているからこそ、「叶わなかった未来」が怖いのです。あけぼの園に残った明希だって、不安がなかったわけではないと思います。それでも明希は幸せを信じて選び通しました。だから私も選び通します。未来の幸せを信じて。そして、自分の力で夢を叶えていくことを。（掲載にあたっては、本人及び保護者の承諾をとっております。）